

1

I am ~. You are ~.

◆指導ページ P.2 ~ 5◆

【主な学習内容】

- ◎主語がI, youのときのbe動詞(am / are)を使う文→主語の違いによるbe動詞の使い分けの学習
- ◎主語がI, youのときのbe動詞を使った否定文・疑問文の学習

学習内容	補足・留意事項など
<p>① I am ~. の文</p> <p>☆「私は～です」→I am ~. I am Mary. (私はメアリーです。)</p> <p>💡文頭の単語は大文字で書き始める。Iは文中でも大文字で表す。</p> <p>(1) amは「～です」にあたり、主語がIのときだけ使う。 💡短縮形 I am = I'm</p> <p>(2) 人名を表すときは大文字で書き始める。 英語の名前は「名前+姓」の順。日本語の名前は「名前+姓」でも「姓+名前」でもよい。</p> <p>② You are ~. の文</p> <p>☆「あなたは～です」→You are ~. You are a student. (あなたは学生です。)</p> <p>(1) areは「～です」にあたり、主語がyouのときに使う。💡短縮形 you are = you're</p> <p>(2) 冠詞 a(an) 「1つの」という意味であるが、日本語には訳さないことが多い。 ① 数えられる名詞につける。母音で始まる単語には、「an」をつけ、それ以外には「a」をつける。 ② 数えられない名詞や固有名詞にはつけない。</p> <p>(3) 敬称の使い方 Mr...男性の姓・姓名の前につける。「～さん」, 「～氏」 Ms...女性の姓・姓名の前につける。「～さん」 Mrs...結婚している女性の姓・姓名の前につける。「～さん」, 「～夫人」 Miss...結婚していない女性の姓・姓名の前につける。「～さん」 💡「～先生」も Mr. / Ms.[Mrs. / Miss.] ~で表す。</p>	<p>●短縮形 2語を1語に縮めた形のこと。省略した文字のかわりに' (アポストロフィ) という符号を使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介で自分の名前を言う表現 I am 名前. My name is 名前. 不定冠詞 a, an のつけ方 <ul style="list-style-type: none"> ①母音字で始まる語 実際の発音が母音である場合 → an をつける。 例 an apple 実際の発音が子音である場合 → a をつける。 例 a unit ②子音字で始まる語 実際の発音が母音である場合 → an をつける。 例 an hour 実際の発音が子音である場合 → a をつける。 例 a student
<p>③ I am ~. の否定文</p> <p>☆「私は～ではありません」→I am [I'm] not ~. 💡I amn't という形はない。</p>	<p>●否定文 「～ではない」のように打ち消す文のこと。</p>
<p>④ You are ~. の否定文</p> <p>☆「あなたは～ではありません」→You are not ~. 💡短縮形を用いて、You aren't ~. または You're not ~. としてもよい。</p>	
<p>⑤ You are ~. の疑問文</p> <p>(1) 疑問文→Are you ~? 「あなたは～ですか」</p> <p>(2) 疑問文は文の終わりにクエスチョンマーク(?)をつける。 「あなたは～」と聞かれているので「私は」(I)で答える。 Are you from China? (あなたは中国出身ですか。) — Yes, I am. (はい、そうです。) 💡Yes, I'm. とはしない。 — No, I am [I'm] not. (いいえ、ちがいます。)</p> <p>💡I am ~. の疑問文 Am I ~? 「私は～ですか」となるが、確認を求めるときなどの言い方で、実際に使う場面は少ない。</p>	<p>●疑問文 「～ですか」とたずねる文のこと。 疑問詞のない疑問文は文末を上げ調子にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「私は～出身です」 I am from 地名(国名). 地名・国名は最初の1文字を大文字にする。

2 This [That] is ～. Is this [that] ～?

◆指導ページ P.6～9◆

【主な学習内容】

- ◎代名詞 this[that]が主語の基本文
- ◎所有格の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p>① This is ～. の文</p> <p>☆「こちらは[これは]～です」→ This is ～. 人やものを紹介するときに使う。 This is Ms. Kobayashi. (こちらは小林先生です。)</p> <p>(1) 主語が this のとき、「～です」は is を使う。 am, are, is を be 動詞 という。</p> <p>(2) 固有名詞：人名や地名など、その人やそのものだけを表す名詞。 いつも最初の文字を大文字にし、前に a や an をつけない。</p> <p>(3) 近くにある「1つのもの」を指して、「これは～です」と言うときは、〈This is a[an] ～.〉で表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 人を紹介するとき This is + 人名. 「こちらは～です。」 • This is には短縮形がないことに注意。That is は That's と短縮できる。
<p>② That is ～. の文</p> <p>☆「あれは[あちらは]～です」→ That is ～. That is my bike. (あれは私の自転車です。)</p> <p>(1) 短縮形 That is = That's That's my bike.</p> <p>(2) 〈my+名詞〉「私の～」、〈your+名詞〉「あなたの～」 my 「私の」、your 「あなたの」のあとに名詞をおき、所有を表す。 my bike 「私の自転車」、your school 「あなたの学校」 このとき、冠詞 a[an] はつけない。 × my a ball × a my ball</p>	<ul style="list-style-type: none"> • this, that は名詞の前について「この～」、「あの～」の意味でも使われる。 例 this book 「この本」 that boy 「あの男の子」
<p>③ This[That] is ～. の否定文</p> <p>☆「これは[あれは]～ではありません。」→ This[That] is not ～.</p> <p>(1) is のあとに not をおく。 This is a table. (これはテーブルです。) This is not a table. (これはテーブルではありません。)</p> <p>(2) This is not は This isn't とすることもできる。</p> <p>(3) That is not は That isn't または That's not とすることもできる。</p>	
<p>④ This[That] is ～. の疑問文</p> <p>☆「これは[あれは]～ですか」→ Is this [that] ～? That is Ken's bag. (あれは健のかばんです。) Is that Ken's bag? (あれは健のかばんですか。)</p> <p>(1) Is を主語(this[that])の前におく。</p> <p>(2) 答えるときは、this[that]のかわりに it 「それは」を使い、Yes / No で答える。 — Yes, it is. (はい、そうです。) ⚠ Yes, it's. とは表さない。 — No, it is not [isn't]. (いいえ、ちがいます。)</p> <p>(3) 人名、名詞を使って「～の」は～'s で表す。 Is that Taro's mother? (あちらは太郎のお母さんですか。) This is my father's pen. (これは私の父のペンです。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 所有を表す 's 's をアポストロフィ・エスという。 • 空欄の数と短縮形 空欄に適語を入れる問題では、空欄の数に注意する。空欄の数によって短縮形にするかしないかを判断する。

3

What is ~? ~ or ...?

◆指導ページ P.10 ~ 13◆

【主な学習内容】

- ◎疑問詞 what を使った疑問文
- ◎接続詞 and・but, 接続詞 or を用いた文「Is this A or B?」の応答

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 「～は何ですか」</p> <p>☆ 「～は何ですか。」 → What is ~?</p> <p>(1) 疑問詞 what を用いて, 〈What is ~?〉「～は何ですか」とたずねる。 疑問詞 what を文頭におき, あとに疑問文の形を続ける。 答えるときは, 〈It is ~.〉「それは～です。」 What is this? (これは何ですか) — It is a computer. (それはコンピュータです。)</p> <p>(2) 文末を下げ調子で読む。</p> <p>② What is の短縮形</p> <p>短縮形 What is = What's What's that? (あれは何ですか。)</p> <p>③ 「それは何ですか」</p> <p>すでに話題になっているものを指して「何ですか」とたずねるとき, it「それは」を使う。 A: This is not a lemon. (これはレモンではありません。) B: What is it, then? (それでは, それは何ですか。) A: It is an orange. (それはオレンジです。)</p> <p>💡 then「それでは, それなら」 文頭または文末におき, ふつうコンマ(,)で区切る。</p> <p>④ 接続詞の or</p> <p>☆ or は「それとも, または」の意味で, 語句と語句を結ぶ働きをする。</p> <p>(1) 〈Is this A or B?〉で「これは A ですか, それとも B ですか」の意味を表す。 答え方: It is [It's] ~. で答える。 💡短縮形 It is = It's</p> <p>(2) or の前は上げ調子に, 文末は下げ調子で読む。 Is this a book (↗) or an album (↘)? (これは本ですか, それともアルバムですか。) — It's an album. (それはアルバムです。)</p> <p>💡 a や an は or の前の名詞にもあとの名詞にもつける。</p> <p>(3) 接続詞の and と but</p> <p>① and 「～と…」, 「～そして…」 ・句を結ぶ働き: 「～と…」 Do you like math and science? (あなたは数学と理科が好きですか。)</p> <p>・文と文を結ぶ働き: 「～そして…」 My father is from Tokyo and My mother is Osaka. (私の父は東京の出身で, そして私の母は大阪の出身です。)</p> <p>② but 「～しかし…」, 「～だが」 This is my pen. But that isn't my pen. (これは私のペンです。しかし, あれは私のペンではありません。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 疑問詞 具体的な答えを相手に求めるときに使う。 疑問詞は文頭におく。 答えには Yes / No を使わない。 what 「何, 何の」 who 「だれ」 whose 「だれの」 which 「どれ, どの」 when 「いつ」 where 「どこ」 how 「どんな, どのように」 • Who is this? 「こちらはどなたですか。」 (写真などを見て) • 接続詞 語と語, 句と句, 文と文を結ぶ働きをする語のこと。and, or, but などがある。 • and を使って3つ以上の語句をつなげる場合は, 〈A, B, C, and D〉のように最後の語句の前にだけ and をつける。

4

He [She] is ~. Who is ~?

◆指導ページ P.14 ~ 17◆

【主な学習内容】

- ◎He[She] is ~. の基本文・否定文・疑問文と応答
- ◎疑問詞 who を使った表現の応答

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 「彼は〔彼女は〕～です」</p> <p>☆ 「彼〔彼女〕は～です」 → He[She] is ~.</p> <p>He is Mr. Jones. (彼はジョーンズさんです。)</p> <p>(1) he 「彼は」, she 「彼女は」は名前や father, sister などの代わりに使われ、代名詞という。</p> <p>(2) 短縮形 He is = He's She is = She's</p> <p>💡 is : he, she, it など自分(I)と相手(you)以外の「1人の人[1つのもの]」のときに使われる be 動詞。</p> <p>Your dog is Beth. (あなたのイヌはベスです。)</p> <p>② He[She] is ~. の否定文</p> <p>☆ 「彼〔彼女〕は～ではありません」 → He[She] is not ~.</p> <p>(1) is のあとに not をおく。</p> <p>He is Tom's father. (彼はトムのお父さんです。)</p> <p>He is not [isn't] Tom's father. (彼はトムのお父さんではありません。)</p> <p>(2) 短縮形</p> <p>He is not → He's not または He isn't</p> <p>She is not → She's not または She isn't</p> <p>③ He[She] is ~. の疑問文</p> <p>☆ 「彼〔彼女〕は～ですか」 → Is he [she] ~?</p> <p>(1) is を主語の前におく。</p> <p>He is a student. (彼は生徒です。)</p> <p>Is he a student? (彼は生徒ですか。)</p> <p>(2) 答え方</p> <p>he や she を使い、Yes / No で答える。</p> <p>Is he a student?</p> <p>— Yes, he is. (はい、そうです。)</p> <p>— No, he isn't. [No, he's not.] (いいえ、ちがいます。)</p>	<p>● 代名詞</p> <p>I, you, he, she, it, they, we など、名詞の代わりに使われる語。</p> <p>● 代名詞 he, she</p> <p>男性を指す代名詞は he, 女性を指す代名詞は she, ものを指す代名詞は it である。</p> <p>Tom (男性) → he</p> <p>Nancy (女性) → she</p> <p>my desk → it</p> <p>ペットのことを言うとき、オスかメスかわかっているときは、he や she を使い、わからないときは it を使う。</p> <p>● be 動詞</p> <p>「～です」という意味を表す語 am, are, is をまとめて be 動詞という。主語によってこれら3つを使い分ける。</p> <p>I → am, you → are</p> <p>he, she, it → is</p> <p>● Is he (she) ~?</p> <p>→ 文末を上げ調子で読む。</p> <p>→ Yes / No で答える。</p>
<p>④ 「～はだれですか」</p> <p>☆ 「～はだれですか」 → Who is ~?</p> <p>(1) 疑問詞 who 「だれ」を使う。文末は下げ調子に読む。</p> <p>答え方：〈He[She] is ~.〉のように答える。</p> <p>Who is [Who's] that boy? (あの男の子はだれですか。) 💡 短縮形 Who is = Who's</p> <p>— He is my brother. (彼は私の兄〔弟〕です。)</p> <p>(2) this [that] + 名詞 「この〔あの〕～」</p> <p>💡 a や an はつけない。 × that a boy × a that boy</p>	<p>● Who is ~? の文</p> <p>① Who is の短縮形は Who's</p> <p>② Who is ~? の文末は下げ調子で読む。</p>

5

I play ~. Do you play ~?

◆指導ページ P.18 ~ 21◆

【主な学習内容】

- ◎主語がI・youのときの一般動詞の基本文・疑問文
- ◎副詞(句)の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 一般動詞</p> <p>☆「～する」という意味で、一般に動作を表すものを一般動詞という。 一般動詞はあとに「～を」にあたる目的語がくることが多い。 I <u>want</u> a bike. (私は自転車がほしいです。) 主語 動詞 目的語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●主語 肯定文の始めにきて、「～は」という意味のことば。 ●動詞 動作や状態を表すことば。
<p>② 一般動詞の play</p> <p>〈play+スポーツ名〉＝「(スポーツ)をする」 〈play+the+楽器名〉＝「(楽器)を演奏する」 ⚡スポーツ名の前に a や the はつけない。楽器名の前には the をつける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●目的語 一般動詞のあとにきて、「～を」という意味を表すことば。
<p>③ 副詞(句)</p> <p>☆副詞(句)：様子や程度、場所、時を表す語(句)。 You speak English <u>well</u>. (あなたは英語を<u>じょうず</u>に話します。) 様子を表す副詞 I watch TV <u>after dinner</u>. (私は<u>夕食後</u>にテレビを見ます。) 時を表す副詞 ⚡他にも次のような副詞(句)がある。 very much「とても、非常に」 hard「一生懸命に」 every day「毎日」 before～「～の前に」 after～「～のあとに」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●一般動詞 (他動詞＝目的語をとる動詞) have「持っている, 食べる, (動物を)飼っている」 like「好む」 know「知っている」 eat「食べる」 drink「飲む」 make「作る」 want「ほしい」 see「見る[見える], 会う」 read「読む」 write「書く」 study「勉強する」 use「使う」 speak「話す」 need「必要とする」
<p>④ 目的語をとらない一般動詞</p> <p>一般動詞には目的語をとらないものもある。副詞(句)をとともなうことが多い。 You <u>live</u> in Japan. (あなたは日本に住んでいます。) I <u>go</u> to the library. (私は図書館へ行きます。) ⚡〈in+場所〉で「～の中に」 〈to+場所〉で「～へ(向かって)」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●目的語をとらない一般動詞を自動詞という。
<p>⑤ 一般動詞の疑問文</p> <p>☆一般動詞の疑問文「…は～しますか」→ Do+主語+一般動詞～? 文頭に do をおく。答えるときは, Yes / No を使う。 Do you <u>eat</u> <i>natto</i>? (あなたは納豆を食べますか。) — Yes, I <u>do</u>. (はい, 食べます。) — No, I <u>do not</u> [<i>don't</i>]. (いいえ, 食べません。) ⚡do not の短縮形は don't。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●do 疑問文や答えの文に使う語で, 特に意味をもたない。

6

I don't ~. What do you ~?

◆指導ページ P.22 ~ 25◆

【主な学習内容】

- ◎主語がI・youのときの一般動詞の否定文(do not[don't])を用いた表現
- ◎What do you ~?の一連の応答表現

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 一般動詞の否定文</p> <p>☆一般動詞の否定文「…は～しません」→主語+do not[don't]+一般動詞～。</p> <p>主語がIやyouのとき、一般動詞の前にdo not[don't]をおく。</p> <p>I walk to school. (私は学校へ歩いて行きます。)</p> <p>I don't walk to school. (私は学校へ歩いて行きません。)</p> <p>💡be動詞の否定文との比較</p> <p>I am <u>not</u> a student. (私は生徒ではありません。)</p> <p>be動詞のうしろにnotをおく</p> <p>I <u>do not</u> watch TV. (私はテレビを見ません。)</p> <p>一般動詞の前にdo not[don't]をおく</p> <p>💡veryの意味</p> <p>肯定文では→「とても」</p> <p>否定文では→「あまり(～ない)」</p> <p>You speak English very well. (あなたは英語をとてもじょうずに話します。)</p> <p>I don't speak English very well. (私は英語をあまりじょうずに話しません。)</p> <p>② too と either</p> <p>(1) 肯定文で「～も…」と言うときはtooを使う。</p> <p>I have a brother. I have a sister, too. (私には兄[弟]がいます。姉[妹]もいます。)</p> <p>(2) 否定文で「～も(…ない)」と言うときは、eitherを使い、〈not ~, either〉とする。</p> <p>You don't have a car. I don't have a car, either. (あなたは車を持っていません。私も車を持っていません。)</p> <p>③ 「何を～しますか」</p> <p>☆「あなたは何を～しますか」→What do you ~?</p> <p>(1) what「何」を文頭におき、あとに一般動詞の疑問文の形を続ける。</p> <p>Do you eat <u>an egg</u> for breakfast? (あなたは朝食に卵を食べますか。)</p> <p>←</p> <p>What do you eat for breakfast? (あなたは朝食に何を食べますか。)</p> <p>(2) 答えるときは、〈主語+一般動詞+目的語〉で答える。</p> <p>— I eat an egg (for breakfast). (私は(朝食に)卵を食べます。)</p> <p>(3) 一般動詞のdo</p> <p>意味：「～する」</p> <p>What do you do after dinner? (あなたは夕食後、何をしますか。)</p> <p>💡doは疑問文を作るdo、doは「(～を)する」の動詞のdo。</p> <p>— I talk with my family. (私は家族と話します。)</p> <p>💡動詞のdoのかわりに、具体的な動詞を使って答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • do notの短縮形はdon't • brother と sister 人を表す名詞であるが、不特定で1人、2人と数えられるため、冠詞aをつける。 • What do you ~?の答え方はYes / Noを使わない。 • 一般動詞のdo「(～を)する」は助動詞のdoとは別。 • 疑問詞+一般動詞の疑問文 What ~? 「何を～」 When ~? 「いつ」 Where ~? 「どこで[に]」 Which ~? 「どちらを」 Why ~? 「なぜ」 How ~? 「どのように」 Where do you play tennis? (あなたはどこでテニスをしますか。)

7

I have two books. some と any

◆指導ページ P.26 ~ 29◆

【主な学習内容】

- ◎名詞の複数形の作り方, many・some・anyの意味と用法
- ◎How many ~? の文の応答の表現

学習内容	補足・留意事項など
<p>1 複数形の作り方</p> <p>☆2つ[2人]以上のものや人を指すときは、名詞を複数形にする。</p> <p>(1) ふつうの語：sをつける。 dog → dogs, cup → cups</p> <p>(2) s, ch, sh, xで終わる語：esをつける。 bus → buses, bench → benches</p> <p>(3) oで終わる語：sをつける。radio → radios, photo → photos esをつける。tomato → tomatoes, potato → potatoes</p> <p>(4) 〈子音字+y〉で終わる語：yをiにかえてesをつける。 country → countries ☞〈母音字+y〉で終わる語はそのままsをつける。boy → boys, day → days</p> <p>(5) f, feで終わる語：f, feをvにかえてesをつける。 leaf → leaves, knife → knives ☞例外 roof → roofs</p> <p>(6) 不規則に変化する語：man → men, child → children, foot → feet など</p> <p>(7) 単数形と複数形が同形の語：fish, sheep, Japanese など ☞数えられない名詞は複数形にしない。 water, money, milk など</p> <p>☞ s, esの発音</p> <p>① 単数形の語尾の音が無声音 [f] [k] [p] [t] : [s]と発音する。 ② 単数形の語尾の音が[s] [z] [ʃ] [tʃ] [dʒ] [ʒ] : [iz]と発音する。 ③ 単数形の語尾の音が有声音(上の①②以外) : [z]と発音する。</p> <p>2 〈many+名詞の複数形〉</p> <p>☆「たくさんの〜」という意味。 ☞ a lot of ~も「たくさんの〜」</p> <p>3 〈some+名詞の複数形〉</p> <p>☆「いくつかの〜, 何人かの〜」という意味。 some はふつう肯定文で使われる。 I want some apples. (私はいくつかのリンゴがほしいです。)</p> <p>4 〈any+名詞の複数形〉</p> <p>☆ふつう疑問文・否定文で使われる。</p> <p>(1) 疑問文で「いくつかの〜, 何人かの〜」という意味。 Do you have any pens? (あなたはペンを何本か持っていますか。)</p> <p>(2) 否定文で〈not ~ any ...〉のように使われるときは、「1つ[1人]も(〜ない)」という意味。 I don't have any cats. (私は1匹もネコを飼っていません。)</p> <p>(3) 〈not ~ any ...〉と同じ意味を〈no+名詞の複数形〉の形で表すことができる。 I don't have any cats. = I have no cats.</p> <p>5 How many ~? の文</p> <p>☆「あなたはいくつ[何人]~しますか」 → How many+名詞の複数形+do you ~? 答えるときは、数を使って答える。 How many eggs do you need? (あなたは卵が何個必要ですか。) — I need five (eggs). (5個必要です。)</p> <p>☞数えられない名詞について「たくさんの〜」と言うときは much または a lot of を使う。 some, any, no は数えられる名詞にも数えられない名詞にも使える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 数えられない名詞 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ名(tennis, soccer など) ・人名・地名(Tom, Japan など) ・教科名(English など) ・物質・液体など(water, tea など) ・抽象的なもの(time など) • 複数形の名詞の前に a や an はつけない。 • many「たくさんの〜」は数えられる名詞の前におく。数えられない名詞の前には much を使う。 a lot of は数えられる名詞にも数えられない名詞にも使える。 • some, any は特に日本語に訳さないことが多い。 • 疑問文中の some 人にものをすすめるときや、相手が Yes と答えるのを予想しているときは、疑問文でも some を使う。 Would you like some tea? (お茶はいかがですか。) • some[any]は数えられない名詞の前にもおかれ、量や程度を表す。 I don't have any money. (私はお金をまったくもっていない。)

9

形容詞・副詞・冠詞

◆指導ページ P.34 ~ 37◆

【主な学習内容】

- ◎形容詞・副詞の働きと用法
- ◎定冠詞 the の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p>1 名詞を修飾する形容詞</p> <p>☆形容詞+名詞 修飾される名詞の前に形容詞をおく。 kind students (親切な生徒たち) You have a big dog. (あなたは大きなイヌを飼っています。)</p> <p>☞名詞が単数形の場合は形容詞の前に a[an]をつけ、(a[an]+)形容詞+名詞の語順で表す。 a big dog, an old pen「古いペン」</p>	<p>●修飾 ある語が他の語にかかってくるわしく説明すること。</p> <p>●形容詞 ものの状態・形・色などを表す。形容詞には、名詞を修飾する働きと、主語を説明する働きがある。</p> <p>①大小・新旧などを表す形容詞 little(小さい) large(大きい, 広い) big(大きい), small(小さい) old(古い, 年とった) young(若い), long(長い) tall(背が高い), high(高い) など。</p> <p>②感情・性質などを表す形容詞 happy(幸せな), sad(悲しい) beautiful(美しい) good(よい), bad(悪い) kind(親切な), busy(忙しい) easy(簡単な) など。</p> <p>③色を表す形容詞 white(白い), black(黒い) brown(茶色の), red(赤い) など。</p> <p>④国籍を表す形容詞 Japanese(日本(人・語)の) American(アメリカ(人)の) English(英国(人)の, 英語の) Canadian(カナダ(人)の) など。</p> <p>●頻度を表す副詞 always(いつも), usually(たいてい), sometimes(ときどき)などの頻度を表す副詞は一般動詞の前, be 動詞のあとにおく。 I sometimes play in the park. (私はときどき公園で遊ぶ。) He is always busy. (彼はいつも忙しい。)</p> <p>●the をつけない場合 go to school「学校へ行く」 go to bed「寝る」 by bus「バスで」 play tennis「テニスをする」など。</p>
<p>2 主語を説明する形容詞</p> <p>☆主語+be 動詞+形容詞 be 動詞のあとに形容詞をおき、「…は～です」と訳す。 Your dog is big. (あなたのイヌは大きいです。)</p> <p>☞修飾する名詞がないので, big に a[an]はつけない。</p>	
<p>3 形容詞の this, that</p> <p>☆(this[that]+名詞)で「この～」「あの～」という意味になる。 名詞の直前に this・that がおかれると形容詞の働きをする。 This doll is pretty. (この人形はかわいいです。)</p> <p>☞「この[あの]～」とある特定のものを指すときは, 冠詞 a や an はつかない。</p>	
<p>4 副詞</p> <p>☆副詞…形容詞・動詞・ほかの副詞を修飾する。</p> <p>(1) 形容詞を修飾…修飾される形容詞の前におく。 I have a <u>very</u> big dog. / This dog is <u>very</u> big.</p> <p>(2) 動詞を修飾…ふつう動詞よりあとにおき, 前の動詞を修飾する。 I <u>get up</u> early. (私は早く起きます。)</p> <p>(3) ほかの副詞を修飾…修飾される副詞の前におく。 They play soccer <u>very</u> well. (彼らはとてもじょうずにサッカーをします。)</p>	
<p>5 定冠詞の the</p> <p>the を定冠詞といい、「その」という意味がある。</p> <p>(1) すでに話題になったものや何を指すかわかっているもの I often go to the library. (2) 天体など, 世の中に1つしかないもの the earth「地球」 (3) 順序を表す語 the first book「最初の本」 (4) 決まった表現 in the morning「午前中に」 (5) 修飾語句で限定された名詞 the name of this dog「このイヌの名前」</p>	

【主な学習内容】

- ◎主語が3人称単数の一般動詞の基本文・否定文・疑問文
- ◎主語が3人称単数の一般動詞の疑問詞を用いた疑問文

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 主語が3人称単数のときの一般動詞の形</p> <p>☆主語が3人称単数の一般動詞→動詞+s[es]</p> <p>(1) I, we は「1人称」, you は「2人称」, それ以外は「3人称」という。</p> <p>(2) 主語が3人称単数のとき, have は has の形で使う。</p> <p>(3) have 以外の一般動詞は, 主語が3人称単数のとき, 動詞に s か es をつける。</p> <p>(4) e, es のつけ方</p> <p>① ふつう : s をつける。 play → plays, look → looks</p> <p>② s, o, ch, sh, x で終わる語 : es をつける。 go → goes, teach → teaches</p> <p>③ <子音字+y> で終わる語 : y を i にかえて es をつける。 study → studies</p> <p>🔦 s, es の発音は名詞の複数形のときと同じように, [s], [z], [iz] の3通りある。</p> <p>② 主語が3人称単数のときの否定文</p> <p>☆「…は～しません」→<主語+does not [doesn't]+動詞の原形 ~></p> <p>do not [don't] のかわりに does not [doesn't] を使い, あとの動詞は原形に戻す。</p> <p>He <u>uses</u> this room. (彼はこの部屋を使います。)</p> <p>He does not use this room. (彼はこの部屋を使いません。) 🔦短縮形 does not = doesn't</p> <p>③ 主語が3人称単数のときの疑問文</p> <p>☆「…は～しますか」→<Does+主語+動詞の原形 ~?></p> <p>答えるときは, <Yes, ~ does.> / <No, ~ does not [doesn't].> を使う。</p> <p>Tomoko <u>cooks</u> well. (友子はじょうずに料理をします。)</p> <p>Does Tomoko cook well? (友子はじょうずに料理をしますか。)</p> <p>— Yes, she does. (はい, します。)</p> <p>— No, she does not [doesn't]. (いいえ, しません。)</p> <p>🔦「友子は～?」とたずねているから, she を使って Yes / No で答える。</p> <p>④ <What does+主語+動詞の原形 ~?></p> <p>☆「…は何を～しますか」→<What does+主語+動詞の原形 ~?></p> <p>What does Tomoko use? (友子は何を使いますか。)</p> <p>— She uses this computer. (彼女はこのコンピュータを使います。)</p> <p>🔦「何を」の部分「何を～を」のようにたずねるときは, What の直後に名詞をおく。</p> <p>What animals does he like? (彼はどの動物が好きですか。)</p> <p>— He likes lions. (彼はライオンが好きです。)</p> <p>⑤ <Who+一般動詞(s, es のついた形) ~?></p> <p>☆「だれが～しますか」→<Who+一般動詞(s, es のついた形) ~?></p> <p>主語の who は3人称単数扱いなので, 動詞に s, es をつける。</p> <p>答え方は, <主語+do [does].></p> <p>Who sings that song? (だれがあの歌を歌っているのですか。)</p> <p>— Michael does (= sings it). (マイケルです。)</p> <p>— I do (= sing it). (私です。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 主語が複数のときは, 一般動詞はそのままの形(原形)を使う。 • 3単現のs 主語が3人称・単数で時制が現在のときに一般動詞につくsのこと。(3単現=3人称, 単数, 現在を略した言い方) • s, es の発音 <ul style="list-style-type: none"> ①一般動詞の語尾の音が無声音 [f] [k] [p] [t] →[s]と発音する。 ②一般動詞の語尾の音が [s] [z] [ʃ] [tʃ] [dʒ] [ʒ] →[iz]と発音する。 ③一般動詞の語尾の音が有声音(上の①②以外) →[z]と発音する。